

# 日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第92号 2015年12月1日



土佐和紙漆喰張り子 十二支 平成25年-27年制作

## 資料見聞

### 土佐和紙漆喰張り子

土佐和紙の里、吾川郡いの町の「草流舎」では、数年前から「土佐和紙漆喰張り子」が作られています。土佐の名産品、土佐和紙と土佐漆喰を使った張り子人形です。土佐和紙の楮紙や雁皮紙が何重にも貼り合わされ、丸味を帯びた愛らしい姿をしています。

実際に貼りの作業をさせていただきましたが、土佐和紙の特徴を手で味わう希有な機会となりました。楮紙はよく伸びて千切れにくく、しなやかな強さに驚きました。また、雁皮紙は薄くすべすべしています。そのなめらかさによって、雁皮紙を張り子の一番外側に貼れば、下地として一般的に使われる胡粉が必要ないとのこと。

土佐漆喰は、弁柄や柿渋、泥藍などに混ぜて漆喰絵の具として使われています。独特の淡い彩色が、やさしい表情をみせています。

前列左から3つ目の「こだき申」は、来年の年賀切手のモチーフになりました。平成24年の「土佐和紙雁皮張り子 龍」に続いて選ばれたのは2度目です。年賀切手の龍は緑がもつと濃いものでしたが、漆喰絵の具を使った写真の龍は、落ち着いた渋い色合いです。草流舎では昔ながらの伝統を活かし、工夫を加えて制作が続けられています。

張り子の中には無患子の実が入っており、振るとカラカラと音がします。無患子は、羽子板の羽根の軸にも使われる黒く堅い実です。「患いがなく健やかに」という願いをこめて無患子を張り子に入れていそうです。

(中村)

## 企画展

# おさるの楽園



伏见人形(京都)

平成28年1月2日(土)～3月21日(祝・月) 中村 淳子

### 切手になった猿

年賀切手には、郷土玩具が描かれています。ふるさとを離れた人びとの郷愁や、家族や友への想いを、温かみのある干支の動物の年賀切手が運んでいます。

平成28年は申年です。年賀切手には本紙の資料見聞で紹介した土佐和紙漆喰張り子のこだき申(高知県)と、大津絵十二支土鈴の申(滋賀県)が選ばれました。

大津絵十二支土鈴は、大津に伝わる



大津絵十二支土鈴 申(滋賀県)

民俗絵画の大津絵から題材を取り上げています。サルは天秤棒の前に提灯、後ろに釣鐘をかついでいます。軽いはずの提灯が下がり、重いはずの釣鐘が上がつているようですが、ものの道理が逆転している世の中を風刺しているとされています。

今回の企画展は、郷土玩具収集家の山崎茂さんから寄贈されたコレクションを中心にサルの郷土玩具を展示しています。山崎さんのコレクションのなかに、今年の年賀切手のモデルを探し

てみたところ、近年作られはじめた土佐和紙漆喰張り子はありませんでしたが、大津絵十二支土鈴は収集されていきました。「ほら、あつたろうがね」と、山崎さんのうれしそうな声が聞こえてきそうです。

### 干支のサルに願いをこめて

山崎さんが郷土玩具の収集をはじめたきっかけは、昭和43年(1968)の年賀切手に描かれた延岡の昇り猿(宮崎県)でした。

いろいろなサルの郷土玩具が日本各地で作られており、山崎さんが申年生まれということもあって、たくさん収集されています。そのなかには、童謡に「エッサ、ホイサッサ」とうたわれたおさるのかご屋や昔話の桃太郎の従者など、誰もが子どもの頃から親しんできたサルのかわいい玩具があります。また、信仰にもとづいて、山の神の

お使いとして御幣をもったり宝珠を持つ姿であらわされたり、馬の守り神として馬に乗ったりする姿がみられます。猿廻しや三番叟を舞う姿など芸能と結びついたサルもいます。

サルは、「災いや病いが去る」とサルをかけた語呂あわせで縁起が良いとされています。さまざまな姿で表現されたサルの玩具には、疱瘡除けや安産のお守りなど、多様な願いがこめられています。

今回の企画展では、郷土玩具を長年収集し、研究されている岩見徹先生に「災いが去る(サル)のように願いをこめて 猿の郷土玩具」と題し、1月30日にご講演いただきます。

### 三猿と三園コラボ

見ざる聞かざる言わざるの三猿は、申だけに庚申信仰と結びついています。子どもは世の中の悪いことを見聞させ



津屋崎人形 桃太郎と猿(福岡県)



甲府土鈴 甲斐国猿橋山王様 宝珠持ち猿鈴(山梨県)



● 後列左から：柏張り子（千葉県）

子抱き猿 木の葉猿（熊本県）  
 柿のり猿 浜松張り子（静岡県）  
 春日大社の一刀彫（奈良県）  
 鹿猿 宮島張り子（広島県）

● 中列：能古見人形（佐賀県）

伏見人形（京都府）  
 福袋かつぎ申 奈良井土鈴（長野県）  
 鯨の背に乗る親子猿（青森県）  
 瓢箪鯨猿 名古屋土人形（愛知県）  
 桃持ち猿鈴（東京都）

● 前列：柴又帝釈天の木猿（東京都）

猿達磨 松江張り子（島根県）  
 親子猿 香泉人形（高知県）  
 北条土人形（鳥取県）  
 厄除け猿 住吉人形（大阪府）  
 きびがら細工（栃木県）

戦後、松本節太郎さんが作り始めた張り子。ゆらゆらと猿が首を振る。

猿玩具の多い九州のなかでも代表的。土の色に胡粉の白と赤、青の模様映える手びねりの猿。大きな柿の上に、首振り猿が乗っている。

正月に授与される干支の一刀彫り。猿が御幣を持っている。

鹿と猿が共存する宮島ならではの鹿猿。鹿を見つめる猿のまなざしが愛らしすぎる。

干支土鈴の猿。ひものところへ手足を集めて、くくり猿のような姿。

住吉、堺の組み猿（喜々猿や千匹猿）が有名だが、伏見人形にも五匹猿がいた。さすが元祖土人形。

大きな福袋で福を招く猿。奈良井土鈴の干支物には福袋シリーズや親子シリーズがある。

明るい色彩と躍動感のあるユーモラスな造形が持ち味の手びねり人形。

瓢箪で鯨を押さえても、のらりくらり捕らえ所がない。元の老僧を大津絵が猿に置き換えた。

不老長寿のシンボルとされる桃をもつ猿も多い。本紙8頁の伏見人形の桃持ちとポーズが似ている。

柴又の帝釈天は庚申の日に、ご本尊が発見され、庚申信仰と結びつき、参道の店では猿玩具を売る。コロんと丸い形をしたユニークな猿の達磨。

山本香泉さんは猿の群像から郷土玩具作りを始めたという。大作もあるが、これは可憐な土鈴。

加藤廉兵衛さん作なので「れんべい人形」ともいう。とぼけた表情に味わいがある猿。

郷土玩具の宝庫といわれた住吉神社の厄除け猿。御幣を持ち、烏帽子を被っている。

特産品の鹿沼箒の落とし草を加工した鹿沼市のきびがら細工。十二支シリーズのうちの猿。



岩乗三猿 小幡人形（滋賀県）

いにきてくださいね。  
 楽園のかわいいサルたちにどうぞ会いにきてくださいね。

また、草流舎の「土佐和紙漆喰張り子の動物園」と asakozirus i の「消しゴムはんこの植物園」との三園コラボも見所です。土佐和紙と土佐漆喰という高知ならではの素材で作られた張り子の動物は、丸っこくて愛らしく、消しゴムはんこでデザインされたテキスタイルの植物は、郷土玩具のサルを引き立てます。

今回の展示には、子どもも楽しい恒例のお絵かきや地図パズルに加えて、特別バージョンの尾崎浅子さん作の消しゴムはんこラリーに、この三猿が登場します。

余計なことを見聞きせず言わないようにとの処世術説などがあり、叡智の秘密を示しているといわれます。

## 手仕事の素朴な力

草流舎 田村雅昭さん

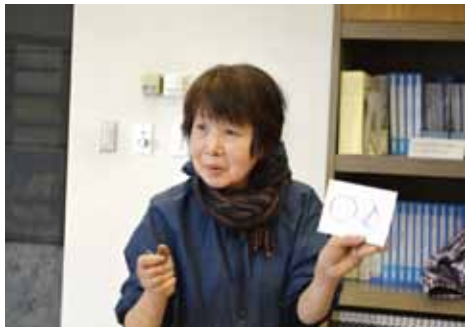
### 土佐漆喰との再会

はじめは香泉人形の復元から入りました。けれど、窯などがなかったため、土人形はすべてを自分の手ですることができません。紙の方が身近ですし、草流舎は紙の産地、いの町にあるので、やがて土佐和紙で張り子を作ることにしました。型も香泉人形からオリジナルへと変えていきました。

けれど、郷土玩具は生業として今は成立しなくなっています。やめようと思ひ、長年の思いのなかにあった土佐漆喰を使って最後にようと作りはじめました。それが土佐漆喰に再会したきっかけです。もともと私たちの世代



田村雅昭さん 「土佐和紙と土佐漆喰の出会い」  
『田村雅昭 張り子と漆喰の人形展』  
東慶寺ギャラリーにて 2014年3月19日



田村多美さん 雅昭さんの奥様。平成23年  
から当館ワークショップ張り子の絵付けの講師。  
「紙のおひなさまに色をぬろう!」  
カルチャーサポーター研修にて 2014年2月8日

は日常の暮らしで土佐漆喰を使ってきました。職人でなくても簡単な屋根の修理や石垣の補修に漆喰を使用しました。まずは絵の具に土佐漆喰を混ぜて張り子に絵付けをしました。それから漆喰の具で絵を描き、漆喰でフレームを作って草流舎で展示していました。

### 転機となった東慶寺ギャラリー展

ある日、アートディレクターの稲生一平さんから東慶寺ギャラリーで個展をしないかと誘われました。一年くらい試行錯誤でしたが、稲生さんからアドバイスを随分いただきました。アクリル系絵の具は反故にして、弁

柄や柿渋、泥藍など昔ながらの素材に土佐漆喰を混ぜるようにしました。漆喰の具を張り子へいかにのせるか、ヒビ割れの防ぎ方など細かい問題を克服していきました。

はじめての個展に何を作ろうかと最初は考えあぐねましたが、東慶寺は禅宗のお寺、白隠さんの達磨図をモチーフとした達磨さんから作り出しました。他所での展示はたいへんでしたが、大きな転機となりました。

### 昔ながらの素材の心地よさ

今回、歴民で草流舎は土佐和紙漆喰張り子を展示します。特色のひとつの漆喰絵の具には、例えば弁柄を使っています。弁柄といえは普通は赤を思ひ浮かべますね。けれど弁柄は鉄錆ですから赤、黒、黄とあるわけで、それに漆喰を混ぜることで多彩な表現ができます。派手さはなく心地よい色です。生き物の血液と同じ色だから心地よいのだらうと思います。血の通った色です。自分にはそうした昔ながらのものの好みがあり、そこにいろいろな経緯が加わって意図せずできたのが、土佐和紙漆喰張り子だと思います。紙も漆喰も弁柄も紀元前からあったものです。昔ながらの素材の力に助けられ、形にできて、うれしいですよ。「昔を今にする」という思いで作っています。

### モノを作る幸せ

2011年の東日本大震災は、遠く離れた土佐の地においても大きな衝撃でした。悶々鬱々とし、身体具合も悪くなり、思考停止状態でしたが、そのうち、「自分にできることは、こんなことしかないんじゃないだろうか」と、また手仕事をはじめました。

今は「郷土玩具を作っているね」と言われて否定もしませんし、肯定もしません。アートという意識も、職人という意識もまったくありません。自由に何でもできる、それが気に入っています。

何か言わなくても、モノで伝わるような作品を作りたいと思っていますが、まだまだそこまでいっていません。

信頼しているのは、素朴な力です。祈りや思いの自然な力です。郷土玩具にも祈りや思いがこめられているでしょう。人の手元に「祈り」を渡していくモノを作る幸せ——— そういう思いで続けています。(聞き手 中村)

### 草流舎の展示

#### 「草流舎2016 素朴な干支展」

いの町紙の博物館  
2015年12月1日(火)~2016年1月11日(月)  
月曜休館・ただし祝日は開館し翌日休館  
9:00~17:00  
吾川郡いの町幸町110-1  
電話088-893-0886  
入館料 大人500円

#### 「縄文のプシュケ(仮)」

東慶寺ギャラリー  
2016年4月9日(土)~4月14日(木)  
神奈川県鎌倉市山ノ内1367  
電話 0467-50-0460  
入館料 無料

## 彫りに残す手のあと

asakozirusi  
尾崎 浅子さん



はじめての消しゴムはんこ

もともと彫ることが好きで木版画と銅版画をやっていました。子どもが生まれたこともあって、ままならないけれど、表現はしたい。木版画や銅版画は準備が必要で、すぐに出来ず、はじめると、すぐにやめることもできません。そこで消しゴムはんこが出て来た感じですね。

友だちが家に来るとき、消しゴムにイラストとウエルカムの文字を彫って消しゴムはんこのパイオニアのナン

シー関さんの作品やコラムが好きだったので、「消しゴムも彫っていいんだ」と頭にあっただと思います。

押したときに、じんわりうれしい

消しゴムはんこは、身近な道具を使って表現できるところがいいですね。特別な材料がいらないから、いきなりはじめられて、すぐにできます。途中でやめてもダメになったりしないので、そのまま置いていてもいいです。

すぐに使えて、すぐに成果もわかります。紙だけじゃなくて、布や石などにも押せます。はんこって押すと楽しいんですよ。押したとき、じんわりうれしい。それを味わって欲しくてワークショップをしています。短時間で完成して何かに押せるのは満足感があるようで、けっこう需要があります。

誰でも簡単にできるし、やればやるほど深

められます。消しゴムをちぎるだけで小さな子どもにも版ができるし、三角を2つ繋げて蝶にしたり、四角をたくさん押ししてビルにしたり、子どもの発想は面白いですよ。大人は器用な方なら細かく描写しますし、間口が広いですね。

小学生の男の子が、「これは何？ できるの？」というようなすごい下絵を描いてきても三角刀で意外と彫れます。技術がないのが味になったりします。思いもよらない表現をみるのが面白いです。ワークショップは参加者から受け取るものが多いですね。

かすれやにじみが好き

消しゴムはんこに流派はないので各自が自己流でやっています。とはいえ、はっきりした図案が多く、キズをつけるのはちよつとタブーになつているところがあります。けれど私は彫りあとを残したり、ヤスリで版にキズをつけて風合いを出しています。たまたま木版をやっていたこともあって印面いんめんに工夫しているんです。その辺が特徴で、こだわりですね。よこれや失敗だと思われそうだけど、かすれやにじみが好きなんです。

のびのびした楽園の植物

郷土玩具が好きなので今回のコラボ

はイメージがわきやすかったです。そもそも民芸が好きで、手のあとが残った、地方のおじちゃんがりゆうみたいな郷土玩具に魅力を感じます。ユーモアがあつて見ていると癒されますね。

旅先で買った郷土玩具を自分の部屋のタンスのガラスケースに飾っています。それを思い浮かべながら彫りました。夫も郷土玩具が好きで、この猿はこんな感じで、楽園はちよつと南国チックに、と口をはさむので、それも踏まえて、のびのびした植物がいいかなと思って彫りました。タイトルの文字も、さるっぽいイメージにしました。彫って版にしているので、手のあとがあつて郷土玩具と合うと思います。

今回、企画展のポスターもデザインしましたが、郷土玩具をどう見せるか考えるのが楽しかったです。楽園を表現したテキストスタイルにも挑戦してみたいと念願の本の装丁もいつか実現したいと思いました。(聞き手 中村)



### asakozirusiの展示

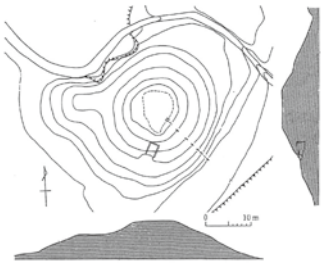
「暮らしの中にあるもの  
2016 カレンダー原画展」

高知こどもの図書館  
2015年12月12日(土)~  
2015年12月20日(日)  
火・木曜休館  
10:00~18:00  
高知市永国寺町6-16  
電話 088-820-8250  
入館料 無料

## 考古

### さるの埴輪

茨城県行方市沖洲大日塚古墳から出土したと伝えられる猿形の埴輪が東京国立博物館に所蔵されています。この埴輪の写真はどこかで見たことがあるかもしれません。大日塚古墳は、茨城県南東部から千葉県北東部にひろがる霞ヶ浦の東岸台地に造られた前方後円墳です。古墳の形は帆立貝形で、全長約40m、前方部の幅10m、高さは3m、後円部は径30m、高さは6mあり、6世紀後半ころの古墳と考えられています。墳頂部には円筒埴輪がめぐらされ、猿形埴輪は後円部の横穴石室付近から出土したといわれています。1989年に発掘調査がされています。2013年に茨城県立歴史博物館で「埴輪の世界 茨城の形象埴輪とその周辺」という企画展が開催され、猿形埴輪が展示されました。



大日塚古墳  
『日本古墳大辞典』1989より

顔は赤く塗られているようです。猿の特徴をよく観察して製作されています。来年は申年、新年から人気がでそうです。

(岡本)

## 歴史

### 寺石正路の遺したもの

作家司馬遼太郎は『平尾道雄その人と史業』の中で、「…維新という大変動がおわったあと、これを歴史として記録もしくは論述するという知的活動が内部から起こったのは土佐である…土佐は明治期に坂崎紫瀾や寺石正路などを出したことが大きかったであろう。かれら草莽の史家のおかげで、幕末・維新から自由民権運動時代にいたるまでのあいだ、無名のまま斃れた多くのひとびとの事蹟が顕れた…」と述べています。

そういえば、数年後に明治維新一五〇年を迎えますが、今年には相次いで郷土史家・寺石正路に触れる展示会が開催されました。まず愛媛県松山市の坂の上の雲ミュージアムでは、「(正岡)子規・(秋山)真之の青春」というテーマ展示のなかで、東京大学予備門の同級生だった寺石の日記が初公開されました。また、和歌山県田辺市の南方熊楠顕彰館では、同じく予備門の同級生で、長く研究交流を深めた寺石を取り上げた月例展「熊楠とゆかりの人びと 寺石正路」が開催されました。幕末・維新期の様々な事象を発掘し、記録し続けた寺石正路。彼の遺したものは何度も何度も蘇り、新しい評価を受け続けています。

(野本)

## 民俗

### 『神話・伝承学への招待』

いざなぎ流や古事記の研究で知られる斎藤英喜さんの編集で『神話・伝承学への招待』が刊行されました。本書はアマテラスやスサノオなどの登場する日本神話を中心に、仏教が関わって生成された中世神話、韓国神話、ギリシャ神話から、現代の伝説や昔話まで16人の研究者が論文やコラムを執筆した神話・伝承の入門書です。最新の研究をベースにしながら、シャーマニズムやアニメ・漫画、偽史、聖地巡礼といったさまざまなトピックが詰め込まれており、興味津々の一冊です。

梅野も、高知のエンコウやシバテンについて「妖怪譚―土佐の河童伝承を事例として―」で紹介されています。漫画やアニメの妖怪と違って、実際に伝えられている妖怪は虚構と現実の間を往来するような微妙なリアリティをもっています。なぜ妖怪は人々に信じられるようになったのか？を考えてみました。水の事故がエンコウのしわざとされたり、かるぼーとの南の鏡川沿いでは、明治末期、一人の男がシバテンに化かされてひとり相撲を取るといふ出来事がありました。これらの不思議な事件が河童のしわざとされ、妖怪は現実

(梅野)



『神話・伝承学への招待』  
思文閣出版  
2300円(税別)

## 第4回旧大栃高校民俗資料一般公開 モノベモノモノガタリ終了!

平成27年10月24日(土)、25日(日)の両日、毎年恒例の旧大栃高校の民俗資料一般公開を行いました。今年には香美市のNPO法人いなかみの主催で「モノベモノモノガタリプログラム」中山間の価値創造と継承」と題し、竹カゴ作りや機織りのワークショップ、縄ないや脱穀、木挽き体験、県立大生による公開調査、物部の古写真展示、地元食や物産販売と盛りだくさんの企画を実施し、2日間で約400人の来場者がありました。地元・物部の人と町外の人、お年寄りや若者が民具や民俗・歴史を介して交流する姿があちこちで見られました。

ワークショップ参加者は物作りの面白さと難しさを味わい、まわりの人は自分もやってみたいというらやまそうでした。  
(梅野)



民具が並ぶ横で竹カゴ作り



公開調査



縄ない体験



けんかもち作り



竹カゴ作り



腰機で布を織る



柿渋染め

## れきみんニュース

## 若武者もとか君、まんさいへ

11月7日(土)、8日(日)の2日間、高知市文化プラザかるぽーとで開催された「こうちまんがフェスティバル2015」まんさいへ、歴民館のマスクットキャラクター「若武者もとか君」が参加してきました。

たくさんの方の来場者の熱気で盛り上がる会場。歴民館はブースも出店し、企画展の宣伝やオリジナルグッズの販売をしました。もとか君は「じもきやらステージ」にも飛び入り出演、会場を沸かせていました。  
(道脇)



歴民館ブース



お絵かきするもとか君

## オリジナルグッズ新発売のご案内 長宗我部元親飛翔之像 絵葉書

今年の5月3日にお披露目された長宗我部元親飛翔之像、皆様もうご覧になりましたか? 飛翔之像デザイン絵葉書が、この秋から新たにオリジナルグッズに加わりました!

絵柄は3パターンあり、どのデザインもカッコイイと早くも人気です。

お値段は、各1枚80円(税込)ですが、3枚同時にお買い上げの場合は、3枚で200円とお得になります!

歴民館受付に併設のミュージアムショップで販売していますので、ぜひ、お手に取ってみてください。

(道脇)



再販のご案内



企画展図録  
『長宗我部元親・盛親の  
栄光と挫折』  
カラー A4版 76頁  
900円(税込)  
送料300円



企画展図録  
『いざなぎ流の宇宙  
—神と人のものがたり—』  
カラー A4版 160頁  
1,500円(税込)  
送料350円

バックナンバーのお知らせ

『高知県立歴史民俗資料館研究紀要第19号』

[史料紹介]

長宗我部国親発給文書について ..... 野本 亮  
地方文書にみる近世土佐の善事褒賞 ..... 大黒恵理

[資料調査員 調査報告]

木造船の造船記録2  
—高知市仁井田 弘光造船— ..... 田辺寿男  
板図を読む—船大工・弘光優氏の板図を  
基に造船図面を描く— ..... 芝藤敏彦

[調査寄稿]

ロイ・チャップマン・アンドリュースが撮影した  
1910年の土佐清水 ..... 宇仁義和

A4版 112頁 850円(税込) 送料350円

岡豊風日(おこうふうじつ) 第92号  
平成27年12月1日  
編集・発行 (公財)高知県文化財団  
高知県立歴史民俗資料館  
〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
TEL 088(862)2211  
FAX 088(862)2110  
開館時間 午前9時～午後5時  
休館日 年末年始12月27日～1月1日  
臨時休館あり  
観覧料 通常期(通常展)大人(18才以上) 460円・団体(20人以上) 360円  
(特別展・企画展通常展示込) 510円  
団体(20人以上) 410円  
無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者、療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)  
印刷・川北印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/  
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

企画展 **おさるの楽園**

2016年 1月2日(土)～  
3月21日(祝・月)

山崎茂氏寄贈郷土玩具コレクションを中心に干支にちなんだ猿のおもちゃを展示します。

伏見人形(京都)

**コラボ展** 草流舎「土佐和紙漆喰張り子の動物園」  
asakozirusi「消しゴムはんこの植物園」

**講演会** 1月30日(土) 14:00～15:30 ●要予約・観覧料要  
「災いが去る(サル)ように願いをこめて 猿の郷土玩具」  
講師:郷土玩具研究家 岩見徹氏

**ミュージアムトーク** ●予約不要・観覧料要・講師:担当学芸員  
1月2日(土)・1月23日(土) 14:00～15:30

**ワクワクワーク** ●電話等で要予約(先着30名)・参加費1200円  
1月16日(土) 14:00～15:30  
「土佐和紙漆喰張り子 こだき申の絵付」  
講師:草流舎 田村多美氏  
企画展期間中 おさるのおもちゃの絵をかこう  
asakozirusi 消しゴムはんこラリー  
おさるのおもちゃ日本地図パズル

**コーナー展** **里帰り 東博所蔵資料**  
12月23日(祝・水)～2月28日(日)  
ミュージアムトーク ●予約不要・観覧料要・講師:担当学芸員  
1月2日(土) 13:30～14:00

**コーナー展** **昔のくらしの道具**  
1月2日(土)～3月6日(日)

**コーナー展** **おひなさま** 2月14日(日)～3月13日(日)  
ワクワクワーク ●電話等で要予約(先着20名)・参加費500円  
2月20日(土) 14:00～16:00  
「消しゴムはんこで春のハガキづくり」  
講師:asakozirusi 尾崎浅子氏  
ミュージアムトーク ●予約不要・観覧料要・講師:担当学芸員  
2月27日(土) 14:00～14:30

**れきみんなのお正月**  
ワクワクワーク ●予約不要・観覧料要  
1月2日(土)「昔遊び」10:00～12:00

**次回予告** 企画展 **いざなぎ流の里・物部(仮)**  
2016年 4月29日(祝・金)～6月26日(日)